

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岡山市立建部中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒709-3142
岡山県岡山市北区建部町建部上734
E-mail takebec@city-okayama.ed.jp
Website http://www.city-okayama.ed.jp/~takebec/
幼児児童生徒数 男子61名 女子38名 合計99名
幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、課題を自ら見つけて解決しようとすることを目指す生徒像として、ESDの実践を通して地域の環境や福祉について多面的・多角的に捉える力、国際貢献しようとする力の育成を目標とした。

具体的には、①環境学習に係わる活動、②国際理解に係わる活動、③福祉に係わる学習を行った。

① 環境学習に係わる活動

総合的な学習の時間に岡山市環境学習センターである「めだかの学校」の協力のもと、田地子川の生物調査を行った。生物調査から田地子川の水質は、きれいなのか、汚いのかを考えたり、調査結果や調べ学習で調べたことなどを、9月の総合的な学習の発表会で発表したりした。環境学習を通して、「田地子川で見つけたきれいな川にしか生息しない、魚や水生昆虫をもっと大切にしていきたい」、「生き物の大切さを再発見できた」などの感想が見られた。今後、田地子川を守っていくためにはどのようなことをしなければいけないかを考えていかなければいけない。

② 国際理解に関わる活動

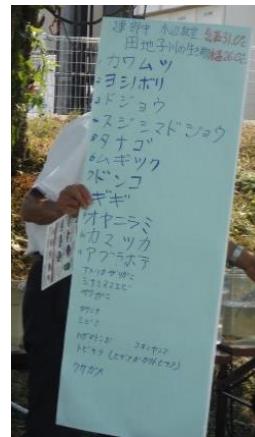
ペットボトルキャップで、発展途上国の子どもたちを救う活動を行った。ペットボトルキャップ800個で一人分のワクチンに換えることができる。校内や校門に回収ボックスを設置したり、地域にある企業（マルナカ、ファミリーマート、戸田ピグメント、なでしこ共同作業所）に協力をお願いしたりし、さらに回収しやすいように工夫した。回収したペットボトルキャップは、昼休みや生徒会活動の日、長期休業日を利用して、リサイクルできる物とできない物を仕分けしたり、汚いキャップを洗浄したりした。また、ペットボトルキャップ回収における成果を地域の方に発信した。1年間で172人分のワクチンに換えることができた。

③ 福祉に係わる学習

総合的な学習の時間に、建部町にある福祉施設へ訪問し、掃除をしたりクイズや紙芝居・合唱をしたりした。このように高齢者と関わることで、自分たちが暮らしている地域の福祉について理解が深まり、関わり方を考えることができた。この学習を通して、「もっと高齢者の方と関わってみたい」や「職場の人と関わってみたい」などの感想が見られた。



活動①の写真（生物調査）



活動①の写真（生物調査）



活動②の写真（キャップ洗浄）



活動③の写真（福祉施設訪問）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールとしての活動は、総合的な時間の学習に位置づけている。指導内容は地域の方からの協力のもと、日本の音楽である箏・三味線演奏法の習得や発表をしたり、ホームページを作ったり、田地子川での生物調査を行ったりできた。内容はとても充実している。それぞれの活動は担当の教員が指導方法を考えている。全ての活動に対して教員全員がESDの視点で指導できるように、ESD研修などを定期的実施していく必要がある。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

平成29年度は特に取組を行うことができなかったため、平成30年度は、本校で行っている活動を、職員全員でESDの視点をもって考える機会を設けていきたい。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

総合的な学習の時間の発表後に保護者や生徒、教員にアンケートをとった。保護者や教員からは発表の仕方についてのアドバイス、生徒からは、「建部の環境について今までよりも知ることができた」、「建部の川をきれいにしようと思った」などの意見が得られた。どのような活動をして、どのようなことを感じたのか、これからどのようなことをしていかなければいけないのかなど、発表会で伝えることを明確にして、発表の指導をもっとしていくことが課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

地域の方が活動をするにあたって協力的なこと。箏・三味線の弾き方、ホームページの作り方を教えてもらったり、生物調査の時に、捕った生き物についての説明や水生生物についての講義をしてもらったりした。これからも、地域の方との繋がりを大切にしていきたい。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
（200字程度）

※チェック事項2-3に対応

活動していない。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項2-4に対応

活動していない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項2-5に対応

特になし。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

今実施している総合的な学習の時間をESDの視点でとらえるようにすること。まず、ESDについての研修会を行い、全職員がESDについて理解できるようにする。そして、ESDの考え方について理解し、総合的な学習の活動にESDの視点を取り入れる。また、講師で来ている地域の方にもそれを理解してもらう。

総合的な学習の時間を、生徒がESDの視点で活動できるように指導する。ESDの視点で活動し、発表会ではESDの視点で活動に取り組んだ結果や成果、考えたこと、課題などを発表できるようにする。